



2014年 宮嶋ゼミ山県市フィールドワーク宿泊研修まとめ



所属 人間福祉学部健康福祉学科

学籍番号 1210054

氏名 鈴木修平

担当 有限会社 花村製作所



はじめに

今回山県市のフィールドワーク調査、宿泊研修の一環として、山県市が発祥の水栓バルブ(水道の設備に使用する配管部品)に関する事前学習を行った。水栓バルブが山県市発祥となった由来は、昭和8年に北村静男氏が生まれ故郷の村づくりとして始めたのが山県市の水栓バルブ工業の始まりである。

今回、花村製作所にて見学を行い水栓バルブの作成の工程や福祉の視点から花村製作所が持つストレンクスやバリアフリーの研究を行う。

会社概要

花村製作所では水洗バルブの製作を鋳造するための型作りから鋳造、鋳造後の加工(部品の角にできる出っ張りの取り除きや表面の研磨)、組み立てや水漏れ等の検査など、すべての工程を自社で行うほか、環境に配慮し型作りの砂を鋳造後砕いて再利用することや、加工時の部品から出た金属片も再度材料として再利用するといった特徴を持つ。

従業員は29人で男性が13人、女性が16人で従業員は山県市出身が多く、ほかに関市や岐阜市がいる状況で従業員は全員県内からの出勤。朝の8時から17時の間を終業時間とし作業場にもよるが1時間から2時間の残業を行い週休は週に2日。

従業員の男女比に関しては作業のほとんどが機械化されているため、作業のポイント(鋳造といった作業)に男性従業員がフルタイムで配置され、組み立てや加工といった製品の製作過程においての自動化が難しい工程にフルタイムで入れない主婦といった女性従業員が配置されるので、結果女性従業員のほうが多い。従業員数に関しては現在人手が足りない状況である。

また、中国といった海外からの研修の受け入れを行い2年若しくは3年の研修を行う。研修生との問題としては海外ということもあり言語による意思疎通が困難なことがあったが、最近では1年2年先に来た先輩の研修生による通訳や日本語の教育により、それらの問題点は改善されつつある。

ストレンクス

花村製作所が持つストレンクスとしては品質を第一にし、図面な寸法に忠実な製品にする品質やお客様の要望に応えるといった品質重要視し、お客様からの信頼を得るサービス面に力を入れている。他にも鋳造といった作業を創業当初から行っているため、鋳造技術は高く、ほかの企業の追随を許さないようにしている。

また、地域貢献として地域の商工会に加入し祭りといったイベントの手伝いや河川の清掃、特別支援学校の生徒を職業体験として二日から三日の間の体験の受け入れを行うといったことや、環境に配慮し油などの廃油を出さないこと、廃材などの再利用がある。

バリアフリー

バリアフリーに関しては障、碍者枠の雇用がないためバリアフリーの導入は見送っているが、今後障、碍者枠の雇用があった場合、障、碍者の方が働けるような環境を提供や専門の作業を用意する予定である。

今後の山県市について

今後の山県市の動向に関して社長の花村さんは今後、10年以内に山県インターができると思うので人口の増加や街の活性化などを市に期待があるとおっしゃった。また、山県市が行った山県市のPR活動に関してはPR後、製作所に来る仕事の受注量が増えるといったことは今のところはないが、多くの人に花村製作所を知ってもらい、気づいてもらうことはあった。

まとめ

花村製作所は、バリアフリーに関しては障、碍者枠の雇用がないという状況なので、バリアフリーの導入はほとんど進んでいないが、海外からの研修生の受け入れや地域に貢献するための活動や、特別支援学校の職業訓練の受け入れ、環境に配慮し廃油を出さない、廃材の再利用などといった多くのストレンクスを持ち、その中でも品質を第一に考え他の企業の追随を許さないといった意識の持ち方が最大のストレンクスであるといえる。

